

令和7年度 岡崎市シビックセンター事業報告書

公の施設名称	岡崎市シビックセンター
施設の所在地	岡崎市羽根町字貴登野 1 5 番地
指定管理者	名 称：SPS・トエネック・ピーアンドピー共同事業体 所在地：東京都江東区豊洲 3-2-4 豊洲フォレシア 16F 代表者：サントリーパブリシティサービス株式会社 代表取締役 古株昭子
指定期間	令和6年4月1日～令和10年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

①音楽を中心とする芸術文化の振興に関すること

ア. 鑑賞型事業

No.	事業名	実施日	入場料金	入場者数	演奏曲目等
1	岡崎市シビックセンター室内楽シリーズ Vol.1 アンサンブル天下統一・長原幸太プロデュース「弦楽の共鳴」	5月25日(日)	一般3,500 学生2,000	214	コダーイ：2つのヴァイオリンとヴィオラのためのセレナード Op.12、ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲 Op.7 ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調「アメリカ」 Op.96
2	岡崎市シビックセンター室内楽シリーズ Vol.2 アンサンブル天下統一・中木健二プロデュース「チェロ・アンサンブル」	9月7日(日)	一般3,500 学生2,000	255	パッヘルベル：カノンとジーク ニ長調、サン＝サーンス：動物の謝肉祭より「白鳥」、ワーグナー：歌劇『ローエングリン』より「エルザの大聖堂への行進」、ポツパー：演奏会用ボロネーズ Op.14 ほか
3	クローズアップおかざき アンサンブル天下統一 2025	11月30日(日)	一般3,500 学生2,000	276	ドホナーニ：弦楽三重奏のためのセレナード ハ長調 Op.10、ヴェイネル：弦楽三重奏曲 ト短調 Op.6、ベートーヴェン：弦楽三重奏のためのセレナード ニ長調 Op.8
4	コロネットキャラバン隊 HIBI★Chazz-K	10月9日(木)	鑑賞無料	60	久石譲：ジブリメドレー、大野雄二：ルパン三世のテーマ、葉加瀬太郎：情熱大陸 ほか
5	コロネットキャラバン隊 Revuer Quartet	10月27日(月)	無料	460	ヴィヴァルディ：四季より「春」、ホルスト：「惑星」より木星、アンダーソン：プリंकブルンクブルンク、ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調「アメリカ」Op.96より ほか
6	コロネットキャラバン隊 岡崎地域文化広場大屋根完成記念 オータムコンサート ～歌声を秋風にのせて～	11月9日(日)	無料	100	岡野貞一：もみじ ドニゼッティ：オペラ『愛の妙薬』より「ラララの二重唱」 平井康三郎：とんぼのめがね ほか
7	コロネットキャラバン隊 竜美丘小学校	11月10日(月)	無料	600	岡野貞一：もみじ 平井康三郎：とんぼのめがね ヴェルディ：オペラ『椿姫』より「乾杯の歌」 ほか
8	コロネットキャラバン隊 岡崎市立城北中学校 オーケストラ部 演奏指導	3月15日(日)	無料	25	チャイコフスキー：アンダンテ・カンタービレ

イ. 参加創造型事業

No.	事業名		実施日	参加料金 入場料金	参加者数 入場者数	事業内容
1	アンサンブル天下統一 アンサンブル・アカデミー	マスタークラス	8月6日(水)～11日(月祝)	¥40,000	32	レジデント・アンサンブルであるプロのアーティスト「アンサンブル天下統一」から指導を受け、一緒に演奏をするアンサンブルに特化したマスタークラスを実施した。最終日には、成果発表のコンサートを行い、市民の方々に弦楽アンサンブルの醍醐味を味わっていただいた。
		岡崎市在住・在学・在勤者限定 ワークショップ	8月9日(土)	¥1,500	6	市内在住・在学・在勤者にアンサンブルの楽しさを体感いただくワークショップを実施。参加者は、講師からの手ほどきを受け、ホールのステージで共演するなど充実した時間を過ごした。なお、なるべく多くの方にご参加いただけるよう、レッスン時間と参加費を調整し、計6組にご参加いただいた。
		アンサンブル・アカデミー コンサート	8月11日(月祝)	一般1,000 学生500	214	5日間のマスタークラスを受講した受講生による成果発表のコンサートを実施した。
2	体験！発見！こども力応援プロジェクト ジュニア・アートプロデューサー		10月～3月	無料	6	小学5～中学1年生の子どもたちが、コンサート制作に関する様々な経験を積み、コンサートをつくりあげる事業。互いに話し合いながら、コンサートのテーマ決めやターゲットの設定、選曲、チラシ作成、広報活動(記者発表)など幅広い業務を体験し、自分たちでアイデアを出し合った企画をまとめ上げた。今年度は、初回に活動サポーターのコンサートを聴き、交流する時間を設けたため、サポーターと参加者の距離が近づき、活動をスムーズに進めることができた。
	音楽の手紙(メッセージ) ～心に届く未来へのコンサート～		3月29日(日)	無料	100	「心に花が咲くような心温まるコンサート」というテーマのもとジュニア・アートプロデューサーたちが様々な準備をすすめてきたコンサートを実施。体育集会室での実施となったが、その分客席との距離が近く、参加者も来場者もお互いの表情を確認できる心温まるコンサートとなった。

ウ. 地元音楽家支援・育成事業

No.	事業名	実施日	参加料金 入場料金	参加者数 入場者数	事業内容
1	次世代育成プロジェクト 未来の音楽家シリーズ 小島万里奈 ※11月9日、10日コロネットキャラバン隊として実施	①11月9日(日) ②11月10日(月)	無料	①100 ②600	地元の将来有望な若手演奏家の育成と支援を目的に演奏活動の場所を提供するほか、企画、制作にも携わり今後の活動に活かしてもらおう事業。昨年度に引き続き、小島氏との活動を継続した。両事業とも、来場者層にあわせて曲目や進行を変えたり、参加型公演にするなどの工夫を行った。

②コロネット市民音楽フェスティバル 大規模改修工事のため実施なし。

③その他提案事業

■ユニークベニュー×シビックセンタープロジェクト

No.	事業名	実施日	参加料金 入場料金	参加者数 入場者数	事業内容
1	ユニークベニュー×シビックセンタープロジェクト シビック出張コンサート ～みんなおいでよ！わくわく音楽フェス！inぶどう畑～	10月9日(木)	鑑賞無料	70	ブランド化推進品目として指定された「ぶどう」に着目し、駒立地区の観光ぶどう園「栄久園」で演奏イベントを実施した。サクソフォンとパーカッションによるジャズを中心とした演奏で、ストリートスタイルでぶどうの木の下を移動しながら、聴衆の間近で音楽をお届けし、ここでしか味わえない貴重な演奏会となった。
2	ユニークベニュー×シビックセンタープロジェクト シビック出張コンサート ～蔵deクラシック～	10月27日(月)	無料	60	岡崎の味噌メーカー「まるやハ丁味噌」と連携し味噌蔵の中で演奏会を開催。演奏はアンサンブル・アカデミー受講経験者である弦楽四重奏を起用。味噌蔵特別ツアーやハ丁味噌の試食も実施した。岡崎の文化とともにシビックセンターの活動を知っていただく機会となった。
3	ユニークベニュー×シビックセンタープロジェクト シビック出張コンサート ～蔵deクラシック 丸石醸造 長菅館～	2月8日(日)	無料	200	日本酒製造を行う「丸石醸造株式会社」の蔵開きイベントとタイアップして実施した。出演者は愛知県立芸術大学の准教授2名と学生4名。当日は朝から蔵開きを目当てとした来場者が多くみられ、普段のコンサートとは異なる賑やかな雰囲気の中で、気軽に楽しめる親しみやすい演奏会となった。
4	ユニークベニュー×シビックセンタープロジェクト シビック出張コンサート ～城deクラシック in 岡崎城～	3月16日(月)	¥1,500	43	岡崎のシンボル「岡崎城」天守閣展望室での演奏会を開催した。出演者にはアンサンブル天下統一メンバーを迎え、ロケーション、出演者ともに特別感ある公演となった。岡崎城としても初の取り組みで、関係各所と連携し、今後の事業につながる実績を作った。

■防災関連事業

大規模改修工事のため実施なし。

■まちなかコンサート

No.	事業名	実施日	参加料金 入場料金	参加者数 入場者数	事業内容
1	まちなかコンサート シビック エキナカトコンサート きらり輝く歌のハーモニー	5月10日(土)	無料	のべ120	シビックセンターにゆかりのある女声合唱団 VOCIBRILLANTIを起用し、10名ほどの合唱コンサートを実施した。会場では歌声が遠くまで響き、駅利用者が足を止めて演奏に聴き入る姿も多く、同日開催の駅前イベントと連携して地域の賑わい創出に貢献した。
2	まちなかコンサート シビック エキナカトコンサート サクソスは大好き？	7月25日(金)	無料	のべ150	岡崎音楽家協会協力のもと、サクソフォン2本とピアノによるコンサートを実施した。暑い中での実施だったが、ジャズやクラシック音楽など誰もが知る多彩なプログラムをお届けし、多くの方に気軽に音楽を楽しんでいただいた。
3	まちなかコンサート シビック エキナカトコンサート特別編 悠情楽団スペシャルライブ！	11月8日(日)	無料	のべ240	岡崎市出身のフィドル奏者・悠情氏によるバンド演奏で、アイリッシュ音楽やダンスを中心のコンサートを実施した。聴衆をステージに巻き込みながら、音楽に触れる機会をお届けできた。同日開催のイベント主催者と連携して、地域の活性化に寄与した。

(2) 交流広場等を利用した地域のまちづくり支援に関する業務

①南部ふれあい祭り（旧シビックセンター夏祭り）

大規模改修工事のため実施なし。

②交流広場事業

No.	事業名	実施日	参加料金 入場料金	参加者数 入場者数	事業内容
1	春の広場事業 シビック・スプリングフェスティバル	4月26日(土)	無料	607	ロビーコンサートや手作り楽器ワークショップ、リトミック体験、フोटスポット設置など、気軽に楽しめるコーナーを設けた。ワークショップで作った楽器を使ってロビーコンサートで出演者と一緒に演奏をしたり、リトミック体験では親子一緒に音楽に触れる場を作ったりするなど、音楽に気軽に触れていただいた。
	秋の広場事業 アートdeおさんぽ	11月8日(土)	無料	750	公園緑地課主催の岡崎駅周辺活性化イベントの一環として実施。また、ロビーディスプレイ事業、まちなかコンサート事業も抱き合わせて、シビックセンター～JR岡崎駅にかけて、回遊しながら様々な文化体験ができるよう工夫した。
2	春の広場事業 シビック スマイルデイ ～作って、踊って、音楽きいて～	3月20日(金祝)	無料	605	ロビーコンサートや工作コーナー、ダンスワークショップのコーナーを設けて実施した。コンサートでは、子どもから大人まで楽しめるプログラムでお届けし、工作コーナーでは春にちなんだ色合いの材料で雰囲気盛り上げた。ダンスワークショップは未経験者でも気軽に参加することができ、親子のふれあいの場にもなった。来場者がそれぞれの楽しみ方で参加できるイベントであった。

③イルミネーションの設置

大規模改修工事のため実施なし。

④花植え事業

大規模改修工事のため実施なし。

⑤ディスプレイの実施

No.	展示テーマ	日程	事業内容
1	ゆめいろの天の川 ～みんなの願いを星にのせて～	6月23日～7月12日	来館者が願い事を書いた星型の短冊をパネルに貼って完成する参加型ディスプレイ作品。想定を超える多くのメッセージが集まり、大規模改修工事中も施設に足を運んでもらい親しみを感じていただくきっかけになった。
2	仮囲いアート みんなで描こう 「音楽とくらすまち」	11月8日～工事終了	秋の広場事業来場者に、交流広場を囲んでいる仮囲いにテーマに沿った絵を描いていただいた。工事期間にしかできない特別事業として実施した。

（１）事業実施に対する自己評価

令和７年度は大規模改修工事のため、鑑賞型事業や育成事業は外部の施設・会場を中心に実施し、館内でも使用可能なエリアを活用して市民が気軽に文化に触れられる交流広場事業などを実施した。実施にあたっては第４期事業計画書に基づき市民と芸術文化の接点の充実を図り、コロネット休館中でも活動が継続していることを広くアピールした。

鑑賞型事業は「せきれいホール」での公演を３事業、館外に音楽鑑賞の機会を届ける公演を５事業実施した。いずれもシビックセンターの独自性が際立つような内容を企画し、岡崎市民を中心とした幼児から高齢者までの幅広い年代の方が、質の高い音楽を楽しむ機会や、感動体験を共有できるような機会を提供した。

参加創造型事業では、「アンサンブル天下統一」によるアンサンブル・アカデミーをせきれいホールにて行ったほか、地域の小・中学生がコンサートの企画・制作にチャレンジする「ジュニア・アートプロデューサー」を継続。地元演奏家支援・育成事業として「次世代育成プロジェクト」もアウトリーチ公演として継続し、次世代アーティストや文化の担い手を育む事業に取り組んだ。

地域ネットワーク事業としては「ユニークベニュー×シビックセンタープロジェクト」４事業と「まちなかコンサート」３事業を実施。ユニークベニュープロジェクトは八丁味噌蔵や岡崎城天守などの市が誇る名所で音楽公演を行い、普段とは異なるロケーションで新たな音楽の楽しみ方を提供した。またまちなかコンサートはＪＲ岡崎駅前イベントと連携してストリートピアノを活用した公演を実施し、生の音楽に親しむ機会が少ない市民にも鑑賞機会を提供できた。

交流広場等を利用した地域のまちづくり支援に関する事業としては、交流広場が大規模改修工事の工事ヤードとなったため、館内の使用可能な施設を活用して市民が気軽に集える文化イベントを実施した。また一部事業ではＪＲ岡崎駅周辺で実施するイベントと連携するなど、事業を通して地域の賑わい創出に寄与することができた。

ロビーディスプレイでは、来館者の参加により完成する２作品を実施。うち１作品は交流広場に設置された工事ヤードの仮囲いに絵を描くもので、工事期間ならではの事業とすることができた。

１年を通して、大規模改修工事による制約を逆手にとってシビックセンターの独自性が発揮された事業を展開することができた。

また「アンサンブル天下統一」の活動が愛知県の芸術文化の向上発展に貢献したものと評価され、「令和７年度愛知県芸術文化選奨文化賞」を受賞した。結成から１３年にわたりレジデント・アンサンブルとして地域とともに音楽文化を育んできた成果である。

音楽を中心とする芸術文化の振興に関する事業 鑑賞機会の提供

鑑賞型事業のうちせきれいホールを借りて実施した３公演はシビックセンターとして独自性のある公演とするため、レジデント・アンサンブル「アンサンブル天下統一」を核とした事業を行った。

5月、9月に開催した2公演は「アンサンブル天下統一」メンバーによるプロデュース公演を企画。5月を長原幸太（ヴァイオリン）、9月を中木健二（チェロ／岡崎市出身）がプロデュースし、普段のアンサンブル天下統一公演では取り上げない室内楽編成とプログラムで、多彩な室内楽の魅力をお楽しみいただいた。共演者には過去の「アンサンブル・アカデミー」受講生を起用し、岡崎で学んだ若手演奏家が再び岡崎に戻ってくる機会を創出した。レジデント・アンサンブルの新たな展開の可能性を示すことができた2事業であった。

11月には「アンサンブル天下統一」としての定期公演を実施した。プロデュース公演との差別化を図るため、ゲスト奏者を入れない弦楽三重奏だけのプログラムとした。あまり演奏機会の多くない曲目も含まれたが、「曲を予習しなくても楽しかった」「知らない曲だがとても良かった」といったアンケートのお声もあるなど、レジデントとして13年にわたり活動継続しているからこそ実施できた内容だった。

なお、せきれいホールを会場に普段通りの接客・対応レベルを維持するため、会館との事前打ち合わせや動線確認を行ったうえでレセプションスタッフ配置した他、誘導・対応に関する研修を行い、事業に臨んだ。ロビーと屋外が直結するという構造のため天候の影響を受けやすく、コロネットとは使い勝手が大きく異なる会場であったが、各事業終了後には課題を抽出して工夫を重ね、全事業とも大きな事故・トラブルなく終えることができた。

コロネットキャラバン隊は5事業を実施。10月は恵田小学校、三島小学校の2校を訪問した。恵田小学校ではストリートを中心に活躍するジャズバンド「H I B I ★ C h a z z - K（ヒビチャズケ）」が演奏。リズムやハーモニーを体感する参加コーナーや学校からの要望で児童たちと合唱曲を共演するなど、鑑賞だけに留まらない内容とした。三島小学校では「アンサンブル・アカデミー」受講生である弦楽四重奏「R e v u e r Q u a r t e t（レヴール・カルテット）」を起用し、クラシック音楽を中心に演奏を披露。低学年と高学年の2回に分けて実施し、それぞれ音楽の授業で扱っている楽曲を盛り込んだ。高学年回では質問コーナーを設け、演奏家を目指したきっかけなどの質問も飛び交い、校長先生からは「キャリア教育の一環にもなった」と喜びの声をいただいた。

11月は「次世代育成プロジェクト」の活動の場として、岡崎地域文化広場の大屋根完成記念セレモニーでのオータムコンサートと、竜美丘小学校への出張公演を行った。いずれの事業もプロジェクト参加者であるソプラノ歌手の小島万里奈と、テノール歌手、ピアニストの3名で演奏。オータムコンサートはオペラアリアや秋にちなんだ童謡、手遊び歌などを演奏し、観客を巻き込む和やかな公演となった。竜美丘小学校では低学年向けには手遊びうたやクイズを交え、また、高学年向けにはアリア演奏前にオペラのあらすじを紹介したうえで登場人物の心情を想像してもらうなど、対象にあわせて演奏曲目や進行を変える工夫を行った。2事業とも、次世代育成プロジェクト参加者と事業担当者との協議しながら演奏環境・対象にあわせた内容を企画した。演奏曲目は2事業で共通するものが多かったが、鑑賞者の反応を想像しながら曲順や進行を変え、飽きさせないプログラムを構成する実践の場ともなった。

3月は中木健二（チェロ）が城北中学校を訪問し、オーケストラ部を対象に演奏と指導を行った。指導曲を演奏して聴かせたり、技術的な指導を行うにとどまらず、お互い

の表情や音色を確認することの大切さや仲間と一緒に演奏することの楽しさを伝えた。

参加創造型事業

「アンサンブル天下統一 アンサンブル・アカデミー」は、8月6日～11日までの6日間で実施。マスタークラスには52名の応募があった。講師による書類・音源審査を経て、6つのグループと10名の個人を合わせて32名の若手演奏家が受講した。市出身で現在ドイツのオーケストラに在籍する方など、海外からの受講も見られた。せきれいホールでの実施に伴いレッスン室、練習室が限られた中で、最大限の受講生を受け入れた。

マスタークラスでは受講生と講師による12グループが、アンサンブルに特化したレッスンを受講。技術の指導だけではなく、日頃第一線で活躍する彼らだからこそその経験を伝え、アンサンブルの魅力や楽しさを共有する事業となった。最終日に実施した成果発表のコンサートでは当日券を72枚販売、過去最多の観客が来場し、地域の認知が上がり定着してきたことがうかがえた。また、期間中に実施した市内在住・在勤者向けワークショップは、ヴァイオリン1名、ヴィオラ1名、ピアノ4名の合計6名が参加し、こちらも過去最多の参加数となった。アンサンブル天下統一のメンバーとの共演により、アンサンブルの楽しさを体験していただいた。

現役トップクラスで活躍する演奏家と一緒に演奏しながら学べる形態は他のマスタークラスには無い特徴である。選抜された高いレベルの受講生や海外からの受講生が集まり、本事業を経て著名オーケストラに入団する者も現れている。このように、「若手音楽家が岡崎に集い、巣立つ」状況が生まれ、岡崎市の新たな資産となりつつあるといえる。

「ジュニア・アートプロデューサー」は10月から3月までの間、全9回活動した。今年度は小学5年生～中学1年生の男女6人が参加し、今年の会場である体育集会室でどのようなコンサートが企画できるか、話し合いを重ねながら制作を進めた。初回活動では、活動サポーター全員が集まりミニコンサートを披露していただいたため、参加者はコンサートについてや楽器を具体的に想像しながらコンサート企画を進めることができた。

企画したコンサートは体育集会室にて入場無料の2回公演として実施した。会場がコンパクトになった分、ステージと客席の距離が近く、参加者は来場者の反応をダイレクトに感じることができた。入場者アンケートはどれも好評だったが、これまでに比べて企画への評価だけでなく、コンサートの内容に対する評価も多く、参加者の考えたコンサートの企画意図がしっかり伝わっていたことがうかがえた。

参加者アンケートからは、「自分で物事を考えて、それを学校や友達の前で言えるようになった」などのコメントが見られた。音楽に触れて感性や創造力を育むと同時に、自ら考える力やそれを発信する・伝える力なども育むことができたと考える。また約半年にわたり東海愛知新聞社とミクスネットワークに密着取材していただき、取り組みを継続発信することができた。

地元音楽家支援・育成型事業

「次世代育成プロジェクト」は令和6年度から年度をまたぐプロジェクトとして小島万里奈氏との活動を継続した。今年度は「コロネットキャラバン隊」事業として館外で2事業の活動を行った。実施内容は5ページを参照。竜美丘小学校には新聞社も複数社取材に訪れ、出演者とシビックセンターの取り組みを多くの方に紹介する機会を創出することができた。

コロネット市民音楽フェスティバル

大規模改修工事のため実施なし

その他提案事業（ユニークベニュー×シビックセンタープロジェクト、防災関連事業、まちなかコンサート）

ユニークベニュー×シビックセンタープロジェクトでは、岡崎が誇る市内の歴史的建造物や観光名所・施設など4箇所で事業を行った。

10月には、市がブランド化推進品目として指定する「ぶどう」に着目し、駒立地区の観光ぶどう園「柴久園」で演奏イベントを実施。ぶどう棚の下での「H I B I ★ C h a z z e K（ヒビチャズケ）」による演奏で非日常を体験していただいた。また、同月に岡崎の味噌メーカーで伝統産業の継承拠点「まるや八丁味噌」と連携し、味噌蔵の中でコンサートを実施。「アンサンブル・アカデミー」受講生である弦楽四重奏「R e v u e r Q u a r t e t（レヴール・カルテット）」を起用した。来場者には味噌蔵特別ツアーなど岡崎ならではの歴史・文化体験と共に、音楽を堪能していただいた。

2月には、日本酒製造を行う「丸石醸造株式会社」の蔵開きイベントとタイアップして実施した。出演者は愛知県立芸術大学の准教授2名と学生4名。当日は朝から蔵開きを目当てとした来場者が多くみられ、普段のコンサートとは異なる賑やかな雰囲気の中で、気軽に楽しめる親しみやすいコンサートとなった。

3月には、岡崎のシンボル「岡崎城」天守閣展望室でコンサートを実施。出演者にはアンサンブル天下統一メンバーを迎えて実施。「岡崎城」という歴史情緒あふれる貴重なロケーション、家康公由来のグループ名を持つアーティスト、そして少人数限定という特別感で、またとないプレミアムなコンサートになった。岡崎城としても初の取り組みであり、関係各所と連携し今後の事業につながる実績を作ることができた。

全事業共、市の観光資源を最大限に活かした事業として、観光振興の一助になったと考える。また、参加した市民が地場産業や地域の歴史・文化に改めて触れ、理解を深める機会につながったと推察する。

まちなかコンサートは、4月、7月、11月に「シビックエキナカ♪コンサート」を実施した。3公演ともシビックセンターに縁のある演奏家を起用し、JR 岡崎駅設置のOKAZAKI STREET PIANOを活用して行った。4月は女性合唱によるコンサートを実施。

会場では歌声が遠くまで響き、駅利用者が立ち止まり聴き入る姿が多く見られた。7月はサクソフォンとピアノによるコンサートで、岡崎音楽家協会協力のもと実施。誰もが聴き馴染みのあるプログラムを中心にお届けした。11月は市出身のフィドル奏者・悠情氏によるアイリッシュバンドのコンサートを実施。公園緑地課主催の岡崎駅周辺活性化イベントの一環として秋の広場事業と連携し、シビックセンターと2拠点で地域を盛り上げた。どの事業も、同日イベント開催の主催者と協力し駅前や地域の賑わい創出に貢献した。

防災関連事業は実施なし。

交流広場等を利用した地域のまちづくり支援に関する業務 **南部ふれあい祭り（旧シビックセンター夏祭り）**

大規模改修工事のため実施なし

交流広場事業

交流広場事業は、4月に「シビックスプリングフェスティバル」を、11月に「シビック アートdeおさんぽ」3月に「シビック スマイルデイ」の3事業を実施。改修工事中のためいずれも館内で実施した。

「シビックスプリングフェスティバル」は、地域の方々向けに音楽や工作体験のイベントを実施し、春の一日を楽しんでいただいた。として行った。1階では楽器の異なる3団体によるロビーコンサートを各2公演計6公演を開催。手拍子や手作り楽器で参加する場面があり音楽に親しんでいただけた。2階は手作り楽器コーナーで、紙コップ、紙皿を材料にしたマラカス、タンバリンで制作することの楽しさ、楽器を奏でる楽しさを体感していただいた。3階では、リトミックで体を動かす楽しさを体験していただいた。それぞれの階で小さなお子様から大人まで幅広い世代の方々に音楽に触れていただくことができ、世代を超えて楽しめるイベントを提供できた。

「シビック アートdeおさんぽ」は、ロビーディスプレイ事業、まちなかコンサート事業と抱き合わせ、また地域イベントとも連携し、シビックセンターからJR岡崎駅を回遊できるイベントとして実施した。シビックセンターでは工作楽器と工事の仮囲いに絵を描くディスプレイ事業、駅ではまちなかコンサート事業としてアイリッシュバンドの演奏と楽器体験コーナーを設けた。子どもから大人まで音楽やアートに触れる機会を幅広く提供した。また、地域のまちづくりの一環として、出会いの駅おかざき、岡崎えきまえ発展会、公園緑地課などが主催するイベントと同日開催し、一緒に地域全体を盛り上げることに貢献できた。

「シビック スマイルデイ」は、春の一日を笑顔で楽しんでもらえるように、ロビーコンサート、手作り工作、ダンスのコーナーを設けた。ロビーコンサートは地元の音楽団体に協力をいただき、楽器も編成も違う2グループのロビーコンサートを開催。春にちなんだ曲から子どもも楽しめる曲まで幅広いレパートリーで観客を楽しませた。手作り工作は、誰でも簡単に作れる毛糸を使ったお花のブレスレットと紙皿と色紙でリース

作りを実施した。ダンスのコーナーでは小さな子供に人気のある音楽に合わせて体を動かし、子どもと一緒に大人も楽しむ様子がみられた。多くの家族連れが訪れ、各コーナーを楽しんでいただいた。

花植え事業・イルミネーションの設置

大規模改修工事のため実施なし

ディスプレイの実施

1階ロビーに「七夕」にちなみ短冊に願い事を書いてボードに貼って完成するアートと、交流広場の工事ヤードの仮囲いに絵を描くアートで、来館者のみなさまに楽しんでいただけるような参加型ディスプレイを実施した。

1階ロビーのディスプレイは、星型と音符型の短冊に願い事を書いてボードに貼り天の川を完成させる七夕にちなんだ企画。展示開始から毎日、ボードの前には来場者が集まって短冊を書いている姿が印象的で、たくさんの願い事で7月7日を前に天の川が完成した。完成した天の川の前で写真撮影をしたり、来場者同士が会話を楽しんだりするなど、人と人とを繋げる役目を担う作品となった。

仮囲いアートは、改修工事中だからこそ出来るディスプレイとして企画。絵を見て明るい気持ちになってもらえるように「音楽とくらすまち」をテーマに秋の広場事業「アートdeおさんぽ」と同日開催した。小さな子どもも大人も一緒に色を選び、筆を走らせ自由に描いたり、下絵の魚や音符に色を塗ったりして賑やかな作品が完成した。当日は制作の様子をマスコミに取り上げていただき、紙面を通してシビックセンターの活動を知っていただく機会にもなった。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

施設名	利用日数	利用可能 日数	稼働率 (日数)	利用単位数	貸出可能 単位数	稼働率 (単位数)
コンサートホール	0	0	0%	0	0	0%
リハーサル室第1	0	0	0%	0	0	0%
リハーサル室第2	0	0	0%	0	0	0%
集会室	270	297	90.9%	533	882	60.4%
交流広場	0	0	0%	0	0	0%

(2) 利用状況に対する自己評価

集会室については、利用率90.9%（利用日数270日／利用可能日数297日）、稼働率（単位数）60.4%（533単位／882単位）となり、令和6年度の稼働率61.3%と概ね同水準を維持する結果となった。

令和7年度は、改修工事中であり、利用控えによって数値が大きく落ち込むことが想定された。しかし、令和6年度の段階から、改修期間中も集会室は継続して利用可能であることを丁寧に周知してきたことにより、既存利用者を中心に計画的な利用が継続され、利用率・稼働率を一定水準で維持することができた。

この結果は、改修期間に入る前から情報提供と利用者との継続的なコミュニケーションを重ねてきたことが、数値の下支えにつながったことを示すものであり、指定管理者としての運営姿勢が成果として表れたものと評価している。

運営面においても令和7年度は単なる「改修工事期間」ではなく、リニューアルオープン（令和8年9月予定）を見据えた準備・整備期間として位置付け、施設運営の質の向上に重点を置いて取り組んだ。貸出ルールや利用区分の整理・明確化を行い、利用者にとってより公平で分かりやすい施設運営となるよう制度面の見直しを進めてきた。

また、来館機会が大幅に減少する中においても、従来の利用者に対しては架電やホームページを通じた情報提供を継続的に行った。貸出条件の変更や、令和8年月から予定されている利用料金改定についても、事前に情報発信を行い、利用者との信頼関係を維持することを重視した運営を行った。

値上げや少子化の進行による施設利用の先細りが懸念される中において、単に利用率のみを追うのではなく、利用者一人ひとりと誠実に向き合い、継続利用につながる関係性を築くことが重要であると考えている。改修期間中におけるこうした取り組みは、再開後の利用回復および新規利用者の掘り起こしに向けた重要な土台づくりであったと評価している。

今後は、リニューアルオープン後の施設環境の変化と利用料金改定という大きな転換点を見据え、既存利用者の満足度維持と新規顧客の獲得の両立を図りながら、利用促進施策を展開していく。引き続き、利用者との信頼関係を大切に、公共施設として公平・公正で、かつ選ばれ続ける施設運営を目指していく。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額（円）
収 入	委託料収入	精算を伴うもの伴わないもの合算	237,817,983
	利用料金収入		1,738,920
	事業収入	コンサートホール事業 交流広場事業	4,049,450
	その他収入	預かりチケット手数料 公衆電話、コピー代等	3,093,783
収入 計			246,700,136
支 出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、事務費 手数料、修繕費、清掃等委託料 保険料等	219,698,311
	（うち修繕費）		10,894,276
	（うち光熱水費）		26,416,387
	事業費	直接事業に係る経費	15,925,146
	その他	本部経費、租税公課、 退職給与引当金	10,250,910
支出 計			245,874,367
差 引			825,769

(2) 収支状況に対する自己評価

利用料収入は大規模改修により集会室のみの貸出であった。工事に伴う騒音・振動が懸念されたが、利用者への事前・当日のご案内や工事業者との連携により、利用離れを最小限に食い止めた。一方で営利利用による利用料3倍ルールのため市民センターへの流出傾向がみられ、結果として利用料収入の予比は94%に留まった。事業収入は、アンサンブル・アカデミー受講生増により予比112%で着地。支出については昨年を引き続き収入状況を鑑みて適切に執行した。

精算事業についても以下のとおり、修繕費・水光熱費とも適切な管理を行った。

修繕費

修繕箇所発生時には、共同事業体内で優先度及び工事スケジュール、費用を基に協議を実施した上で岡崎市文化振興課に提案し、計画的に執行した。

水光熱費

エネルギーの使用量は、夜間利用のない日の省エネ対応（夜間施錠）等を行うなどの対策を実施し、年間を通して適切に管理を行った。10～12月にかけて空調機の入

替えにより空調使用がなかった影響が大きく、電力使用量は前比 67%、ガス使用量は前比 68%となった。

4 調査結果（アンケート等）

（１）実施概要

■音楽公演 来場者アンケート

公演日	開演時間	公演名	鑑賞者	回収数	回収率
5月25日(日)	15:00	岡崎市シビックセンター室内楽シリーズVol.1 アンサンブル天下統一・長原幸太プロデュース 「弦楽の共鳴」	214	120	56%
9月7日(日)	15:00	岡崎市シビックセンター室内楽シリーズVol.2 アンサンブル天下統一・中木健二プロデュース 「チェロアンサンブル」	255	150	59%
11月30日(日)	15:00	クローズアップおかざき アンサンブル天下統一2025	276	154	56%

（２）アンケート結果概要

音楽公演 来場者アンケート

本年度の来場者アンケートは上記3公演を対象に、公演来場者の特性、満足度、ニーズの把握を目的に実施、「令和7年度 来館者調査報告書」にてまとめている。収集した情報をもとに振り返りを行い、来場者ニーズの企画への反映および、来場者サービス向上を目指した。調査結果の概要は以下の通り。

鑑賞者の年代構成

鑑賞者の年代は、70代以上が40.0%、次いで60代が30.6%で、全体の70.6%。また50代以上も加えると87%となった。20代以下の割合が、昨年度に比べ2.4%アップした。

鑑賞者の居住地

鑑賞者の居住地は「岡崎市内」が最も高く68.2%、次いで「愛知県（その他）」が10.7%で、「その他」が9.0%と続いている。

友の会の入会有無・会員内容

来場者の会員比率は、会員が42.7%、非会員が57.3%であった。改修工事期間によるラインナップが影響してか、非会員の数値を昨年度と比べると、12.6ポイントアップした。

また、会員の内訳は「クラシック会員（有料）」が38.3%、「ベーシック会員（無料）」が50.0%で、ベーシック会員の比率は昨年度に比べて2.9ポイントアップした。

会員内容と鑑賞者の特性

友の会の加入状況と年代の関連性をみると、会員の割合が最も高いのが60代、次いで70代であった。10～30代は会員がいなかったが、これまでも会員数は少なく、例年同様、同じ客層が来場していることがわかる。

友の会入会有無と居住地では、会員の割合が高いのは「幸田町」63.7%、次いで「名古屋市」53.9%、「岡崎市」47.4%であったことから、市外からの来場者は比較的熱心なファンが多いことがうかがえる。

鑑賞理由と鑑賞者の特性

鑑賞の理由と鑑賞者の特性（年代、居住地、会員内容）において、年代と鑑賞理由の関連性を見ると、全ての年代で「出演者がよかったから」が最も高い。また、「家族・知人・友人に誘われたから」が10代は37.5%、20代では38.5%と他の年代と比べて高かった。今年度実施した「室内楽シリーズ」の2事業では、アンサンブル天下統一と「アンサンブル・アカデミー」を受講した若手演奏家によるコンサートだったことから、若手演奏家たちの同年代の友人・知人が多く来場したことが推察される。

居住地においてはほぼ全てのエリアで鑑賞理由として「出演者がよかったから」が最も高く、「好きなジャンルだから」「プログラムがよかったから」が上位を占める結果となった。

また会員内容と鑑賞理由の関連性をみると、入会の有無に関わらず「出演者がよかったから」が69.7%と最も高かった。非会員は会員に比べて「近かったから」の割合が高かった。今年度はせきれいホールで実施したことで、普段とは異なる層の来場につながったことがうかがえる。

関心のあるジャンル

今後聴きたい／観たいジャンルは「クラシック」が88.4%と最も高く、次いで「ジャズ」26.3%と例年同様の結果となったが、30代では他の年代と比べて「バレエ」を挙げた方が多かった。「クラシック」の中では「室内楽」を挙げた方が54.2%で最も高く、次いで「弦楽器」が高かった。昨年、一昨年度と「ピアノ」が最もニーズが高かったが、今年度は室内楽に特化した事業が中心だったため、室内楽好きの方が来場していたことがわかる。

公演の満足度

企画の満足度（「とても満足」＋「満足」）は97.3%と、大規模改修による会場変更や公演数・ジャンルの減少もある中、昨年度とほぼ同じ高い評価を得ることができた。企画内容に対しては「工事中の期間「どうなるんだろうか」と思っていました、一味ちがう企画を用意してくださり本日も大満足です。」「岡崎というまちに根を下ろして素晴らしい音楽パフォーマンスを届けてくださる“天下統一”に感謝しています。」など、改修期間限定の「室内楽シリーズ」に対する評価をいただいた。また、「シビックセンターの音がすごくよかったんだ！と今回の演奏をきいて思いました。はやく、コロナでまた、天下統一さんの音をききたいです。」「早く改装が終わり、あの場所（コ

ロネット）で演奏を聴きたいです。」など、ホール再開を待ち望む声を数多くいただいた。「職員の皆様のご対応が丁寧で、過しやすかったと思います。とても良い１日となりました」等のスタッフに対するお褒めの言葉も見られ、イレギュラーな体制の中でもお客様からの期待に応える良質なサービスを提供し、満足度の維持、再開への期待感醸成につながった。

利用者アンケート

施設の貸出し業務に関する利用者の満足度およびニーズを把握することを目的に、令和７年度も利用者アンケートを実施した。

本年度は大規模改修工事の影響により貸出対象が集会室のみとなり、利用機会が限定されたことからアンケート回収数は６１件となった。

利用者の年代は、５０代が１４件、６０代が２２件、７０代以上が８件と、５０代以上が全体の７０％を占めており、会議や研修、講座やサークル活動で継続的に施設を利用する層が中心である傾向が見られた。

利用歴については、「２回目以上」と回答した利用者が４３件（約７０％）と多く、改修期間中においても一定数のリピーター利用が継続していることが分かる。

お住まいについては、岡崎市内在住が３２件（約５２％）と半数以上を占める一方、名古屋市１１件、安城市４件、愛知県内その他６件など、市外からの利用も一定数確認された。

交通手段では、マイカー利用が４７件（約７７％）と最も多く、無料駐車場を備えた立地条件が、改修期間中においても利用継続の要因となっていることがうかがえる。

初めて利用した方に対する当館の認知経路については、「シビックセンターのホームページを見て」が１０件（約４５％）と最も多く、次いで「岡崎市のホームページを見て」が６件（約２７％）であった。改修に伴い利用可能施設が限定される状況下においても、ホームページが重要な情報提供手段となっていることが確認された。

当館を選んだ理由（複数回答）では、「無料駐車場がある」が３６件（２８％）と最も多く、次いで「アクセスが良い」２４件、「駅が近い」２２件、「利用料金が手ごろ」２１件となった。集会室のみの貸出であっても、立地条件や利用のしやすさといった基本的な施設特性が評価され、選択理由となっていることが分かる。

予約方法および貸出方法については、「現状で良い」が３３件（約５８％）、「概ね良い」が１４件（約２４％）と、約８割の利用者が肯定的に評価しており、改修期間中の制限がある中でも、受付対応や事務手続きが一定の評価を得ている。一方で、入室可能時間に関する要望など、運用面での改善意見も一部寄せられた。

施設・設備については、「とても満足」１９件（約３１％）、「満足」３６件（約５９％）と、約９割が満足以上と回答しており、改修期間中も清潔さや使いやすさが評価された結果と考えられる。一方でＷｉ－Ｆｉ設備に関しての要望もいただいた。

スタッフ対応についても、「とても良い」２９件（約４７％）、「良い」２８件（約４６％）と、９割以上が良好な評価を示しており、利用者との丁寧なコミュニケーション

が信頼につながっていることがうかがえる。

「今後も利用したいと思うか」という問いに対しては、61件すべてが「そう思う」と回答しており、改修工事による制約がある中でも、施設および運営への評価と期待が維持されている結果となった。

令和7年度は大規模改修工事により限定的な運営となったが、この状況下においても、利用者ニーズに配慮した運営と丁寧な対応を継続することで、高い満足度と利用意欲を維持することができた。今後は改修工事完了後の全面再開を見据え、改めて多様な利用形態に対応できる運営体制を整え、市民にとってより使いやすく、公平・公正な公共施設としての役割を果たしていきたい。

5 その他自己評価

(1) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用者アンケートを通じたニーズ把握のほか、受付窓口においても施設利用の問い合わせ時のお客様とのコミュニケーションを大切にしたい。いただいた声は優先順位をつけ改善に取り組んだ。

集会室の机の標準配置を変更し、レイアウト変更せずに定員30名が着席できるようにした。また利用者の声を受け前年度に購入した貸出用パネルの利用を開始し、使い勝手の向上に対して喜びの声をいただいた。

加えて、前年度に導入準備を進めてきたキャッシュレス決済は令和7年4月から稼働を開始した。施設利用料およびチケット料金の支払いに使用し、決済方法が増えたことで利用者の利便性が向上した。

一方で、大規模改修工事に伴う騒音・振動の影響が懸念されたが、工事業者とのコミュニケーションを密に行い、利用者には事前に情報提供することで、大きなクレームやトラブルなく利用いただけた。

(2) 苦情対応等に対する自己評価

本年度も継続して日々の「安心安全な運営」と、ご指摘発生時には「迅速かつ誠実な対応」を心がけた。ご指摘内容は速やかに岡崎市に報告すると共に、必要に応じて協議を行い改善に繋げた。日々のお客様対応をマネージャーが日報も活用しながら把握し、ご指摘対応のみならず、意見や要望にも可能な限り対応した。

(3) その他

人材育成

本年度も指定管理の安定運営とサービス向上を目指し職員の人材育成に取り組んだ。JVの合同研修のほか、共同事業体各社においても実務及びサービス・マナー向上に向けて計画的な人材育成を実施した。

JV共通のものとしては、外部講師による救急救命講習、危機管理マニュアル読み合わせといった緊急時対応に備える研修や、固定概念を排し多様な価値観を受け入れる組織風土を育むための「アンコンシャス・バイアス研修」を実施した。

各社独自の研修においては日常業務のブラッシュアップにつながるものだけでなく、業界団体主催の専門研修や個別の施設視察、オンラインを活用した研修やeラーニングも積極的に取り入れて実施した。

今後も各業務の専門性を高める研修を継続し各部門の安定運営を図り、シビックセンター全体のスキルアップを目指したい。

消防訓練、防災関連事業の実施

消防計画のとおり、本年も年2回の消防訓練を実施した。10月には合同庁舎とシビックセンターの合同で実施。3月はテナントも含めたシビックセンター全体での訓練を行い、緊急時の避難誘導に関する訓練を行った。

以上